

# WINUP FILM(ウィナップフィルム)

## ユニ インクジェットシステム

### 抗菌性能数値<sup>※1</sup>

	“ユニ”	
	24 時間後の菌数	対照区の菌数
黄色ブドウ球菌 (接種菌数)	<10 ( $2.5 \times 10^5$ )	$2.0 \times 10^5$ ( $2.5 \times 10^5$ )
大腸菌 (接種菌数)	<10 ( $2.4 \times 10^5$ )	$1.1 \times 10^7$ ( $2.4 \times 10^5$ )

### 耐滑り性能 (C.S.R) <sup>※2</sup>

	“ユニ”	安全歩行 C.S.R
紳士靴 (Dry)	0.86	0.38~1.03
紳士靴 (Wet)	0.46	

※1 “ユニ” 透明フィルムについて JIS Z 2801:2000 により測定した

※2 “ユニ” 透明フィルムを塩ビ系ホモジニアスタイルに貼付し、東京工業大学大学院理工学研究科建築学専攻横山研究室にて測定した

### 耐候性能<sup>※1</sup>

試験時間	“ユニ”	耐候性未付与
500 時間	A	A
1000 時間	A	B
1500 時間	A	C
2000 時間	B	C

※1 “ユニ”、透明フィルムと耐候性未付与透明フィルムについて紫外線カーボンアークランプ、ブラックパネル温度 63℃、湿度 50%RH 以下無制御のフェードメーターで測定し、塗膜の濁り（白濁）とウィナップ樹脂塗膜の密着性で評価した

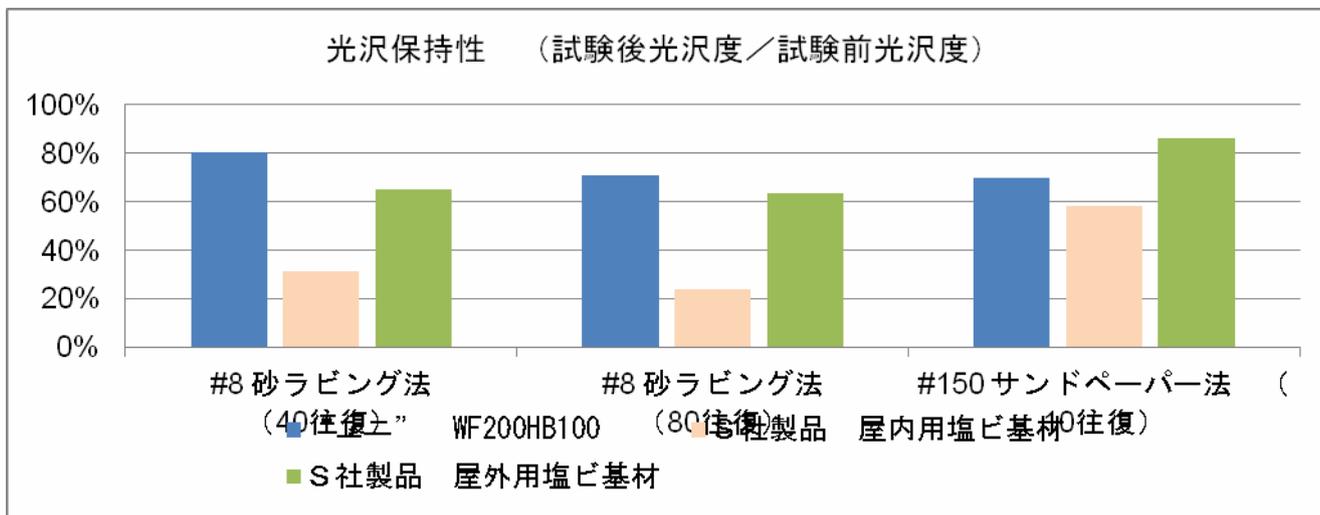
### ☆主要他社の IJ 印刷システム製品との性能比較

光沢保持性 <sup>※1</sup>	“ユニ” WF200HB100	S 社屋内用 塩ビ基材	S 社屋外用 塩ビ基材
砂ラビング法 (40 往復) <sup>※2</sup>	72→58	14→4.4	2.3→1.5
砂ラビング法 (80 往復) <sup>※2</sup>	72→51	13→3.1	2.2→1.4
#150 サンドペーパーラビング法 (10 往復) <sup>※3</sup>	73→51	13→7.6	2.2→1.9

※1 “ユニ” IJ 印刷システムと S 社 IJ 印刷システムを塩ビ系ホモジニアスタイルに貼付して、光沢 劣化させる前と後の 60 度鏡面光沢度を測定した。

※2 フィルムのウィナップ塗膜面に珪砂を置き、体重に相当する重りをのせて 40 および 80 往復させた

※3 フィルムのウィナップ塗膜面に#150 サンドペーパーを置き、体重に相当する重りをのせて 10 往復させた



耐汚染性※1	“ユニ” WF200HB100	S社屋内用 塩ビ基材	S社屋外用 塩ビ基材
黒マジック	○	×	×
赤インキ	○	△	×
水性マーカー	○	○	×
マニキュア	○	△	×
口紅	○	△	×
毛染め液	△ (○) ※2	△ (△) ※2	× (×) ※2
ヒールマーク	○	△	×
着火タバコ	○	×	×
油性塗料	○	×	×
ラッカーシンナー	○	×	×
飽和カセイソーダ	○	○	○
98%硫酸	○	×	×
#8 砂ラビング (40 往復)	○	△	×
#8 砂ラビング (80 往復)	○	×	×
#1 スチールウール (20 往復)	○	△	×

※1 インクジェット印刷システム“ユニ”(WF200HB100+WFM2150)とS社の屋内用

および屋外用のシステム(いずれも塩ビ基材)を比較した。いずれも塩ビ系ホモジニアス

タイルに貼付し、ウィナップ塗膜面に汚染物質を付着させて室温で3時間密閉放置した後、

JISの規定に準じて拭き取った。但し、着火タバコは5分間放置した

※2 (○)、(△)、(×)は“ウィナップ”バッファーBを使ってパフイングした後の状態を示す